

令和5年度大野市スポーツ推進審議会（第1回会議録）

- 日時 令和5年10月16日（月）午後7時～午後8時35分
- 会場 エキサイト広場総合体育施設2F会議室
- 内容

職員紹介（令和5年度人事異動による）

1 開会あいさつ（会長）

お足元の悪い中、ご参加いただきお礼を申し上げます。活発なご意見等での議事進行をお願いしたい。

2 議事

（1）令和5年度のスポーツ施策、事業の中間報告について

事務局から資料に基づき説明【資料1】

<質疑応答>

委員：令和5年度の課題として、一つ目に「健康づくりにつながるよう多くの人が参加しやすい事業の実施」、二つ目に「スポーツをしたい人がスポーツ教室等の開催情報やスポーツ施設の情報、団体の紹介等の情報を入手しやすくするための取り組み」を挙げているが、例えば、スポーツ推進委員は年間を通してニュースポーツなどを始めとして、スポーツを通したいろんな活動を行っているが、大野市に限らず、県下でも同じであるが、スポーツ推進委員自体の認知度が低いということを非常に大きな課題として捉えている。なかなか認知度が上がっていかないというところで、SNSの利用や初めての試みとして、今年度はスポ推だよりの発行を行う予定でいる。スポーツ推進委員で行っている種目が様々な市民に提供できるスポーツであっても、なかなかそれを上手く広報できていない。令和5年度から6年度への課題として、良いモデルや事例等を参考にしながら、詰めていっていただきたい内容である。質問というよりは、むしろお願いということで、スポーツ推進委員の現状についてのご承知置きも含めて、発言をさせていただいた。

さらに、多くの人が参加しやすいということであると、私自身、本日、

出席されている西川委員さんからロコミでヘルスウォーキングプログラムのことを教えていただき、今年の6月から初めて参加している。この事業は市の別部署の事業だが、課を超えてコラボし、定期的にウォークラリーなどが開催されると、誰もが楽しく、わきあいあいと話しながら歩いて健康になれる、一番参加しやすいイベントになるので、またご検討いただけると嬉しい。

会長：広報のことは、以前にもこのような話題があり、広く市民に周知できる何か媒体はないかということでは、市の広報紙があるが、そこに載せるだけでは、見るということも含めて、その情報にたどり着くというところまではなかなか難しい。今ほどのロコミということでは、結構、強力で、やってみようかなという行動変容というか、参加するという行動に移りやすくなるが、やはり実際問題としては、市民が参加するという行動に移りやすくなっていく広がり方につながることは難しい。

例えば、先ほどのお話の中での、新しいチラシとはどんなものか。

委員：スポーツ推進委員の中でのスポ推だよりというもので、今現在はまだ発行には至っていないが、他の市町の例なども参考にしながら、準備を進めているところである。それこそ、市の広報紙にも取り上げてもらうなどして、そのアピールというところの重要性は感じている。

会長：そのことは、この後の議題にもある成果指標にもつながっていく。

事務局：周知ということでは、市の広報紙での情報提供がほとんどであるが、最近では市のLINEによる周知も行っている。

他の部署との連携ということでは、エキサイト広場総合体育施設の無料開放や健康食守フェスタに、ヘルスウォーキングプログラムをコラボして行っている。今後も継続して実施していくとともに、より良い内容としていきたい。

委員：らくらく施設予約システム導入事業について、詳しく教えてほしい。

事務局：小中学校体育館等の社会体育での利用については、これまでの利用申請の流れとして、利用したい小中学校に事前に利用申請書を提出に行き、その後、スポーツ推進課から利用許可書と利用料の納付書が郵送されるので、金融機関で納付する。その後、利用する当日になって、

社会体育用の鍵を管理する管理人に鍵を借りて利用し、終了後にまた鍵を返すというこの流れをオンラインで行うというもので、現在、そのシステム導入に向けて準備を進めているところである。

事務局：運用開始は、令和6年度4月からを予定しており、今後、スポーツ少年団を始めとする利用団体に対して、説明会を開催する。

委員：エキサイト広場総合体育施設や結とびあの体育館はどうなるのか。

事務局：管理人が常駐している両施設については、今までどおりの申請方法になる。

委員：結とびあの予約については、今までは電話で予約をしていたが、来年度からは変更になると聞いた。その辺のことについて、分かったら教えてほしい。

事務局：その辺も含めて、今後、説明をさせていただく。

委員：来年度の予算ということで要望をさせていただきたい。少年野球の指導者という立場から申し上げるが、来年度から野球チームが1チームになり、対戦相手がいないということで、競技力の低下を懸念している。そこで、市外チームと対戦する機会を増やすため、市外チームを呼んでの大会開催を予定している。現在の制度である全国大会出場への激励費や補助金交付も良いことだと思うが、子どもたちのスポーツ大会を開催することに対する補助という部分での協力をいただきたい。

事務局：現状の制度で申し上げると、大野市スポーツ交流大会開催事業補助金という制度があり、その中で市外のチームが宿泊する場合は、一人当たり500円の助成を行っているので、活用いただきたい。

委員：大会の開催に当たっては、宿泊以外にもいろんな経費が掛かってくるので、宿泊費以外でのご協力を検討していただきたい。

事務局：他の競技の状況も見ながら、検討していきたいが、今ほどの補助事業の補足として、本市に宿泊するということが条件となり、また選手以外にも監督やコーチについても補助対象としている。なお、補助金額の上限を30万円としている。

(2) 令和5年度のスポーツ施設の利用状況について

事務局から資料に基づき説明【資料2】

<意見・質問等なし>

(3) 大野市スポーツ推進計画の進捗状況について

事務局から資料に基づき説明【資料3】

<質疑応答>

委員：スポーツ指導者の資格取得について、講習会が福井市で開催されるように、誘致といった働き掛けをお願いしたい。例えばバレーボールで言うと、講習会が開催される会場は、全国各地を順番に回っている。北信越ブロックで開催される場合もあるが、それにしても福井県での開催となると、何年かに1回といった状況になる。しかも、新規取得のための講習会となると、受講期間は3、4日も掛かる場合がある。

事務局：スタートコーチの講習会で言えば、つい先日、奥越エリアとして本市で講習会が行われた。スタートコーチは、県のスポーツ協会が主催する形になるので、そういった機会をご利用いただきたい。更なるその上の資格になってくると、確かに講習会の開催日数や受講費等も多く掛かってくる。開催会場や日数については、県のスポーツ協会に確認をする。

委員：先日、越前市でバレーボールの大会が開催された。越前市の競技団体から参加依頼の声が掛かったので、大会参加費を納めて参加してきた。先ほど説明のあった大野市スポーツ交流大会開催事業補助金については、来てもらうチームの皆さんに対して宿泊代を補助するというのではなく、大会を運営する主催者側に対して補助していただきたい。

事務局：市外のチームを大野市に呼んでいただければ、市内での消費も行われるということで、各競技団体やスポーツ少年団を通じての補助としている。

委員：1点目として、今年度は、日本スポーツマスターズ2023福井大会バスケットボール女子競技のプレ大会として3×3大会が開催されたが、今後も続けて実施していく予定でいるのか。

2点目として、エキサイト広場夏期無料開放の利用実績と冬期無料開放に向けた周知方法は。

事務局：1点目について、7月に開催した3×3大会については、本大会である日本スポーツマスターズのバスケットボール女子競技を盛り上げるため、市バスケットボール協会の協力の下、大野市の主催ということ

で当課職員が中心となって行った。他の競技についても今回のように実施できると良いが、職員のマンパワー的にも限界があるため、きっかけとして市が主催で実施し、それ以降については、それぞれの競技の協会が主催していただきたい。

2点目について、エキサイト広場冬期無料の周知については、市報や市のLINE等のほか、例えば、ヘルスウォーキングプログラムに参加されている皆さまに対しての担当課との連携した案内周知や、各種スポーツ関係の会議での案内など、関係部署や機関と連携した周知を今後もしっかりと行っていく。

なお、エキサイト広場夏期無料開放での利用実績は130人で、延べ人数としては、907人の利用実績だった。

委員：中央の組織である全国スポーツ推進委員連合では、数年前からファミリー健康体力向上事業という事業を実施しており、福井県も今年度から参加しようということで、私もその研修を受けた。簡単な6種目の運動や体力測定により健康状態を把握してもらう事業で、家族で取り組んでもらうことが目的の一つとなっている。例えば、今度のエキサイト広場冬期無料開放や一般の方が参加しやすいイベントを、ヘルスウォーキングプログラムと連携して開催するとした場合、家族で参加されたらポイントをたくさん付与するなど、家族での参加を呼び掛けてみてはどうか。私自身、夏期無料開放の市報等でのアナウンスを見ていなかったし、潜在的に健康づくりということに興味、関心を持っていても、情報を見ていない方も多いのではないかと思う。家族や友人、知人から誘われて参加するケースが一番可能性として高いと思うので、家族単位での参加を呼び掛ければ、家族同士のつながり、結のつながりにより市民全体への相乗効果にもつながると思うので、周知ということでの意見として、こういったことも検討いただきたいということをお願いする。

事務局：先ほどのスポーツ交流大会について、誘致や招待するに当たって、一番掛かる経費は何か。

委員：主にボールなどの備品や、バレーボールで言うと、ラインテープなどの消耗品である。会場使用料は、スポーツ少年団に登録しているので、

免除していただいている。

事務局：主催者側が招待したチームに対して、市内のお店で弁当を取って用意するようなことはないのか。

委員：昨年度は一度、新鮮館で弁当を手配したこともあったが、今年は各チームの各家庭で持ってきてもらっている。というのも、ただ単に野球大会を実施するだけではなく、例えば一緒に連れてきた選手の弟さんや妹さん、父兄の方にどうしたら野球の大会に来てもらえるかということも考えており、試合の外では、祭りのような企画も開催するなどして、野球に行きたいと思ってもらえるような、新たな手法を見据えていきたいと考えており、そういう部分に係る経費についても、検討いただけると助かる。

委員：他県の体育館では、バドミントンコートやバスケットボールコートなど、競技種目ごとに色違いで分けてラインテープが引いてあるが、エキサイト広場総合体育施設のアリーナは、利用前に自分たちで引かなければいけない。例えば、競技種目ごとに分けて、ラインテープで区画整備を行う考えはないのか。

委員：バレーボールで言えば、できれば引かない方が良い。

会長：ラインテープが引いてある体育館では、逆に黄土色の布テープを上から貼って、要らないラインを隠すようなことをしている大会が多い。

会長：先ほど、広報についての話が出たが、私が住んでいる場所の小学校で、子どもに福井市にある健康の森の無料チケットが配布されたが、結局は親が連れていかなければいけないので、親も行かざるを得ないということで、先ほどの家族でという話もあったが、私自身も子どもと一緒に行って施設を利用した。主催側としては、使われたチケットからどこの地区のどこの小学校なのか、使われなかった地区はどこなのか、という情報を把握できたりもするので、そこからいろんな支援の方法だったり、足を運んでももらえるサービス方法を考える上で参考になることがある。

委員：エキサイト広場冬期無料のチラシを小中学校の子どもたちに配布すれば、家に持って帰って会話し、家族で来てくれる可能性も出てくるのではないか。

事務局：インターネットでというよりは、紙媒体の方が良いと思われるのか。

委員：私は紙での情報の方を見る。市報に載せるよりは、学校を通じてチラシなどを配布した方が確実かもしれない。

副会長：体育施設について、資料2にある各施設の管理方法については、スポーツ推進課が直営で行っている施設や管理公社へ管理委託している施設があるが、オンラインでの予約システムを導入するに当たっては、一元管理できるのか。

事務局：基本的には、小中学校の体育館についての予約であり、職員が常駐している施設については、そこで予約していただく。結とびあ等については、今後、調整し、利用者の皆さんに説明させていただく。

委員：今後、小中学校が統廃合されていくが、体育館はどうなるのか。

事務局：人口が減ってきているという状況において、各体育館の利用状況や利用頻度を見ながら、今後のことを考えていく必要がある。

委員：現在、中学校の改修工事が行われているが、体育館を使えない時期というの、分かっているのか。

事務局：開成中学校と陽明中学校が改修工事に入っているが、体育館については、来年度に取り掛かるということを知っている。工事の期間については、なるべく長期休業の時期に実施するのではないかと推測するが、直接の担当課ではないので、詳しいことは分からない。利用できない期間などが分かれば、周知させていただく。

会長：今年度に設定されている成果指標の努力目標について、達成見込みをどのように考えているのか。

事務局：達成できるものと、難しいものがあると考えている。例えば、指標の一つ目、市民1人当たりの体育施設利用回数については、昨年度は8回という目標を達成できず、6.8回程度の実績だった。今回も昨年度の同時期と比べた場合によく似た状況ということで、先ほどより皆さんからお話いただいた周知や広報の方法などに、しっかり取り組んでいかないと達成することは難しいと考えている。その一方で、スポーツイベントの開催や誘致、そしてスポーツ教室や各種スポーツ大会の実施という指標については、達成できるのではないかと考えている。また、スポーツ指導者公認資格の新規取得者数については、資格

を取得する指導者が増えている傾向にあるので、今後、期待できるのではないかと考えている。

(4) その他

<質疑応答>

委員：今、この場で結論を出そうというものではなく、今後、考えていただきたいという思いから申し上げます。一番最初の大野市スポーツ振興計画は、平成16年に策定されたと思うが、その振興計画を作る時の国の動向としては、切れ目のない健康づくりを支援し、生涯スポーツ社会を創ろうということで、今、市スポーツ協会も一番はそういったところに目標を据えているが、生涯スポーツ社会を創っていかうとした時に、単発でのクラブではやっぱり続いていかない。指導者が引退するとともにクラブがなくなる。成果指標にもスポーツ教室の実施ということが挙げられているが、スポーツ教室に参加はするが、スポーツ教室がなくなったら、もうスポーツをしなくなる。そういう状況の中で、総合型地域スポーツクラブの話が出てきて、総合型地域スポーツクラブを進めていく中で、国がいろんな補助金を作って補助を行ってきたが、ここで何が問題になったのかと言うと、補助金で立ち上げるが、その補助金が途絶えるとともにクラブが潰れていくということが起きた。結局のところ、何が地域住民に足りないのかと言うと、スポーツにはお金をかけて、受益者負担でやるものだという意識が低いということが一番の問題であるということから始まっており、当時、大野市もスポーツ振興計画を作るに当たって、スポーツはお金を掛けて行うものだという意識付けていかうということで、スポーツ少年団などもそのような方向に進めて行ったし、これは確認した訳じゃないので確かなことは言えないが、公民館主催のスポーツ教室を全て有料にした。スポーツにはお金をかけて、指導者や備品などを賄っていただけるような意識にしていこうということで、これまでやってきたはずである。大野市のみんなスポクラブは、立ち上げ当時から約20年間、一度も市の補助金を頂かず、自分たちだけのお金で、今現在、300人くらいまでの会員になって、生涯スポーツを続けられている。それが最近聞いたところでは、公民館がその有料化を止め、公民館でスポ

ーツを無料でできるから、みんスポの会員を辞める方が出てきたということをちらっと聞いた。生涯スポーツ社会の推進やスポーツをする人をたくさん増やしていこうとか、スポーツ教室への参加者を増やしていこうとした時に、確かに無料にしておく方が参加はするが、10年、20年先もずっと継続してスポーツをする人を増やしていくために、それに対してずっと行政が支援を続けることができるかと言うと、それができない社会だから、自分たちでスポーツをする、そんな社会を創っていこうとやってきた。目先のことだけではなくて、この先もずっとそれをやっていけるのか、自分たちでスポーツや健康づくりをどんどんやれるような社会を創っていくために、実際問題としてどうしていかなければいけないのかという、少し先を見た考え方を持つこともとても大事だと思うので、先ほどからの公民館教室が無料で行われているということを、私自身が確認した訳ではないため、事実かどうかは分からないが、そういったことも考えて20数年前に大野市スポーツ振興計画が作られたと思うので、また一度、検討いただきたい。

事務局：当課が主催する教室等については、必ず受益者負担で行っているが、その他のことについては確認する。

事務局から事務連絡

- ・ 次回の会議

開催時期 令和6年3月中旬（予定であり、必要があれば随時）

内容 令和5年度の事業実績、スポーツ推進計画の進捗状況、令和6年度事業等の説明

3 閉会あいさつ（副会長）

スポーツ協会の会長という立場上、時折、スポーツ推進課の職員や健福祉部長と一緒に会議を行うこともあるが、新たな発想というのは、なかなか難しい。そんな中で、本日は委員の皆さまから、貴重なご意見をたくさん頂いた。令和5年度は、あと半年が残っている。本日、皆さまから頂いた意見が益々のスポーツ推進に生かされていくことを期待したい。